

7/28・31

都市間交流で親睦を深める

姉妹都市小中学校交流事業『ふるさと豆記者交流事業』
『四五都市連絡協議会小学生スポーツ交流事業』

7月28日(木)、幌別小学校で、姉妹都市小中学校交流事業の一環として宮城県白石市と登別市の児童が交流する『ふるさと豆記者交流事業』（市教育委員会主催）を開催しました。

この事業は、両市の児童が互いのまちについて理解するとともに、学校間の交流を推進し、友好を深めることを目的に、平成4年から実施しています。今年では白石市の児童が登別市を訪れ、それぞれのまちの文化や学校の取り組みなどを紹介しました。

また、7月31日(日)は、『四五都市連絡協議会小学生スポーツ交流事業』（同実行委員会主催）が総合体育館で行われ、剣道の交流試合を行いました。

四五都市連絡協議会は、昭和45年に市制施行した市のうち、人口3万人で市制施行できるよう幹事市として取り組んだ登別市を含む6市により、昭和55年に設立した『新市制実現都市連絡協議会』（後に『新都市連絡協議会』に名称変更）が前身となっています。

その後、市町村合併により退会した3市を除く、滋賀県守山市、東京都福生市、登別市と各市の市議会を加えた『四五都市連絡協議会』を結成。その事業の一環として同スポーツ交流事業を平成26年度から実施しています。幌別小学校6年生で大将を務めた堀松心月くんは、「どんな人と戦えるのか楽しみにしていました。良い交流ができてうれしいです」と話していました。



▲「ぜひ、白石市に遊びに来ててください」と話し、白石市を紹介する豆記者たち



▲竹刀を振るい、気合の声を響かせ白熱した戦いを見せる児童たち

7/26

はいかい役を全員発見

登別市はいかい高齢者等SOSネットワークを活用した模擬訓練

7月26日(火)、市内3地区で、『登別市はいかい高齢者等SOSネットワークを活用した模擬訓練』（市、登別市地域包括支援センター主催）を行いました。

今年で3回目となる同訓練は、認知症の高齢者が行方不明になったとの連絡を受けた市職員が、協力機関や市民などにファクスや7月から運用を開始したメール配信サービスで目撃情報の提供を依頼し、情報伝達などの連携を確認するものです。

今回の訓練では、市内事業者らの声掛けにより、はいかい高齢者役の4人全員を無事発見し、これまでの取り組みの成果を見せました。

登別市高齢者等SOSネットワーク情報メールへの登録をお願いします

登別市高齢者等SOSネットワーク情報メールへ登録いただき、日常生活における目撃情報など、可能な範囲で情報提供をお願いします。

ご協力いただける方は、二次元バーコードを読み取り、電子メールを送信し、返信されたメールの指示に従って登録してください。

▶問い合わせ 高齢・介護グループ (☎5720)



遠い地での思い出作り

熊本地震被災児童生徒受入事業

市は、北海道市長会の提案を受けて、平成28年熊本地震で被災した児童を招く受入事業を企画し、7月27日(水)から29日(金)にかけて、熊本大学教育学部附属小学校の4年生から6年生までの男女5人と引率者1人を受け入れました。

28日(木)には、観光都市・のほりべつを満喫してもらうために、登別マリンパークニクスや登別伊達時代村、大湯沼川天然足湯などを案内しました。子どもたちは「クリオネを初めて見た。熊本の水族館では見られないと思うので貴重な体験となった」などと話し、短い期間ではありましたが、たくさんの思い出を作りました。

7/27~29



▲登別マリンパークニクスで魚の観賞を楽しむ熊本の子どもたち